

第2回 公共施設再配置・町有地有効活用等検討委員会 議事要旨

開催日時	平成28年8月3日(水) 13時30分～16時00分	
開催場所	役場2階第1会議室	
出席者	委員	出席5名 小峰委員、山崎委員、杉崎委員、三宅委員、二見委員
	その他	
	二宮町	政策総務部長、政策総務部財務課2名
	事務局	政策総務部企画政策課3名
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開 会 2. 会長あいさつ 3. 議 題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 平成28年度の取り組みについて (2) 公共施設の現状と課題について (3) 町有地の現状と課題について (4) 財政の現状について (5) マーケットサウンディングについて (6) その他 4. 閉 会 	

■議事要旨

1. 開 会

2. 会長あいさつ

3. 議題（○委員意見 ●町意見等）

（1）平成28年度の取り組みについて

●事務局より説明

○統廃合の検討は、第2回と第3回委員会で行うのか。

●今回は、公共施設の現状と課題を示すので意見をうかがいたい。第3回でも詳細を示すので検討いただきたいと考えている。

○今回の委員会でも、統廃合について話し合うということによいか。

●よい。

○統廃合と財政の検討があるが、統廃合のシミュレーションと財政のシミュレーションを同時にやるのか。

●施設の更新費の平準化を検討する中で、施設更新に併せて複合化も検討したい。

○2回目から3回目にかなり大きな方向性を出すことになる。2回目から3回目の間に我々の知識を得ることができるような機会を設けることはできないか。基本的な知識がなければ分からない。勉強会を開催して欲しい。

●委員会とは別に、委員と打ち合わせを行う時間をとってもらえるなら対応することは可能である。委員会と別に勉強会を開催する方向で進める。

○統廃合について、町の担当課ではどのように検討しているのか。住民の要望と民間参入を慎重に検討する必要がある。

（2）公共施設の現状と課題について

●事務局より説明

○役場は耐震化されていない。中長期的に検討するということが、地震に襲われて危機管理能力が失われると困る。

○現状と課題のまとめは、町が作った資料か。

●まとめは、施設ごとの現状と課題を一覧にまとめたものである。

○たたき台ということか。まとめは、結論ととられかねないため、慎重に考えてほしい。

○今回の資料のまとめは、たたき台ということなので、削除することとする。

○公共施設の現状を把握しているのは、担当課である。意見を吸い上げて欲しい。

○財政シミュレーションは複合化を検討しないとできないのではないか。トップダウンで総量削減の検討を行うだけでなく、個別の施設の積み上げも必要だ。

○役場庁舎は検討しないのか。

- 検討しないわけではなく、緊急性があるため、町の内部でも別途検討するということである。
- スケジュールを見ると検討は11月までとなっているが。
- 検討は1年を通じて行う。11月までとなっているのは、ある程度期間を決めて行うということである。
- 基本方針をどこまで作成するのか。複合化の検討はどこまで行うのか。
- 基本方針では、民間の活用や統廃合等の方向性を出すことを考えている。
- 今言われた内容は基本構想ではないか。いきなり実施計画が策定できるのか。時間軸でどの施設をどうするか、ガイドラインもなくできるのか。やりたいこととできることにギャップがある。

(3) 町有地の現状と課題について

- 事務局より説明
- 東大果樹園跡地のA地区は、検討から外すということか。
- そうではない。A地区は利用しにくい状況であるということである。
- C地区のことは書かれていないが。
- B地区と同じ状況と考えるのであればよい。
- 「A地区については、東京大学果樹園跡地活用等検討委員会で示されているとおり」とあるが、委員会で結論は出ているのか。
- 出ている。
- 木造の建物は利用できるのか。
- 建っているだけである。
- 大学研究室で測量調査を行った。シロアリも入っているが、補修すれば利用できる。活用は、公共施設再編の中で考える必要がある。
- 正泉寺跡地を放置しておくのはもったいない。
- 正泉寺跡地は、マーケットサウンディングを通じて活用の可能性を検討する。正泉寺跡地は他の施設と一体で検討すべきではないかという提案である。
- コンパクトシティが議論されている中で、新たに開発するという方向性はないのではないか。原風景にもどすという考え方もあるのではないか。公共施設の再配置の検討の中で、検討する方がよい。

(4) 財政の現状について

- 事務局より説明
- 平成27年度の公共施設支出の施設種別構成をみると、教育施設の割合が大きい。
- 教育施設の支出は、平成27年度に大きな工事はなく、むしろ費用がかかっている。毎年この程度はかかっている。面積を減らさなければ支出は減っていない。
- 1施設当たりの人口を整理してはどうか。老人憩の家等、何人に1つであるかを示せると再

編する必要性が分かりやすくなるのではないか。

- 再編について委員会で検討して欲しい。人口当りの箇所数だけでなく、使われ方も考慮する必要がある。
- 支出が超過している。収入を上げるか支出を下げる必要がある。
- 公共施設は、最寄りの施設を利用する場合と、車で利用する場合がある。学校であればスクールバスも考えられる。劇的に人口が減ると予測される中で、そのような議論はなくてよいのか。学校を用途転用することも考えられる。
- 学校は核心の問題になる。統廃合もあるが、子どもがいなければ維持できない。学校は地域の核にもなる。
- 子どものこと、子育てのことを大事にしたい。効率化だけではない。痛みは避けられないが、子育て世代にとって何がよいのか、守るところは守ろうということも必要だ。
- 広げたものを畳むだけでなく、残し方のデザインもある。平成3年に「学校施設の複合化について」という国の答申が出ている。

(5) マーケットサウンディングについて

- 事務局より説明
- 町単独で公共施設を維持することは難しい。しかし、現時点では民間に参入の意欲があるのかさえ分からない。
- 指定管理者も含まれるのか。
- 含んでいる。例えばラディアンへの導入が考えられる。参入意欲がある事業者がいるか把握したい。
- 公共サービスは住民にとって重要であり、利益が上がるのが必ずしも住民の利益につながるわけではない。町民の利益が大切である。財政が厳しい中で、それほど委託料を支払えるはずはない。よく考えてほしい。
- PFI は実績がありプラス、マイナスの評価が可能だが、オープンリノベーション、PRE はどの程度実績があるのか。今の時点で評価できるのか。
- オープンリノベーションも PRE もここでは、手法の紹介である。サウンディングで民間からの提案があれば提示する。提案があっても、事例をよく調査して適切でなければ採用しない。
- 新しいものに踊らない方がよい。メリット、デメリットを評価した上で実施する方がよい。

(6) その他

- 町民との協働の視点も入れて方針を作って欲しい。

4. 閉 会